

2024.8.5



間もなく79回目の終戦（敗戦）記念日がやってきます。日本を破滅のどん底に突き落としたあの悲惨な大戦争の記憶は、私たちのような高齢者ほどより、戦後生まれの人々にとつてもいまだに鮮明に残っていると思います。そして私たちは、ことあるごとに「戦後〇年目」という言い方をします。そうすることによって、私たちは、戦争の惨禍の記憶を風化させず、日本が再び戦争への道に迷い込まないように、自

らを厳しく戒めることは確かに大事なことです。

「戦後」と「戦前」

しかし80年近くもたつて、いつまでも「戦後」という認識だけでよいのでしょうか。私は、最近の国際政治状況を見るにつけ、いつまでも「戦後」という視点だけではなく、「戦前」という視点が必要

な時代になっているのではないかという気がしてなりません。

もっとはつきり言えば、日本人がいつまでも「戦後」にこだわら、

「戦後」にこだわら、平和志向オンリーでその先を考えないという一種の思考停止状態に陥っている間に、次の大戦争、すなわち「第3次世界大戦」の危機が徐々に迫っているのではないか。確かに

に日本は憲法で戦争放棄を宣言したけれども、戦争が日本を放棄したわけではなく、戦争の危機は外から容赦なく迫ってきているのではないか。そのような戦争の序曲はすでに始まっているのではないかと感じています。

日本などは準々決勝戦くらいで敗退し、現在では単独で

覇権を狙う国々

ロシア（旧ソ連）は第2次大戦後超大国化し、米国と世界覇権を争い

長い「冷戦」を戦いましたが、結局準決勝戦くらいで敗退しました。その後プーチン大統領は「夢よ再び」と、超大国復帰を狙ってウクライナ侵攻を始めたものの、目論見が外れて目下苦戦しています。中国や北朝鮮の助けを借りてなんとか頑張っていますが、それは自力では勝てないことを証明したようなもの。核兵器を使えば勝てるのかもしれないませんが、それはロシア自身の破滅にもつながるおそれがあるから、いかにプーチンといえども安易に使うわけにはいきません。いずれにせよ

第3次世界大戦の序曲がすでに始まっている



米国の核実験「キャッスル・ロメオ」（1952年）

ウクライナ戦争で体力を消耗したロシアは、しばらくは立ち直れず、トランプ大統領から脱落したとみてよいでしょう。（2面に続く）



プーチン大統領（ロシア大統領府のサイトから）

次の挑戦者は中国

となると、単独で米国と戦えるだけの力を持ちつつあるのは中国で、いずれ将来米中で決勝戦が行われるのではないかと思われま

政治の現状はどうなっているか。これも非常に複雑微妙で、簡単に論じること

まず、米国を中心とする、いわゆる民主主義陣営についてみると、ウクライナ戦争を契機にNATO(北大西洋条約機構)の存在が増大しているこ

「パートナー」として欧州各国とも緊密な協力関係を構築しつつあります。他方、英仏などは対中警戒心からアジア太平洋地域への関与を強めつつあり

このほか、オーストラリアは、米英と3カ国防衛体制、「オーカス」(AUKUS)を結び、その枠組の中で、原子力潜水艦の建造を目指していま

米、豪、インドの4カ国は「クワッド」(Quad)という形で連携して

第3次世界大戦の序曲がすでに始まっている

これに対し、中国を中心とする非民主主義(独裁的)陣営も、さまざま

中国中心のブロック

ナードなどさまざまな形で参加しており、そのうち、タジキスタン、インド、

ブロック化の危険性

国際政治のブロック化はいつの時代でもあり、例

「第4次世界大戦」のような形をとるのではないかと(ただし、それは「第3次世界大戦」後も地球上に人類や国家が生き残ればの話ですが)。その他にも

一方、日本や韓国は、米国の2国間の安全保障条約による相互防衛体制を維持し、日米韓の3

中国はさらに、「一帯一路」政策を進めていま

中国はさらに、「一帯一路」政策を進めていま

国際政治のブロック化

トントンと、現実の国際

は口韓両国は「NATO」

「上海協力機構(SCO)」というグループも

想で、必ずしも軍事的性質

問題は、その一触即発

台湾有事のシナリオ

問題



Quadのイメージ



沖縄と台湾がふたを

の危機がいつ、どこで、どういう形で発生するかですが、これにもいろいろ

当面台湾の出方を注視しているようですが、習近平政権はかねてから台

もう一つ台湾有事を考

元外交官。ハーバード大学法科大学院卒。元国連環境計画(UNEP)アジア太平洋地域

元外交官。ハーバード大学法科大学院卒。元国連環境計画(UNEP)アジア太平洋地域